

# 人がつながる「地域と共にある学校づくり」研修講座 実施報告

《日時》 平成30年8月3日（金）13:15～15:50

《会場》 奈良県産業会館

《参加者》 県内公立幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職員、地域コーディネーター、市町村教委担当者、団体・企業等 計325名

## 《内容》

### ◆説明「地域と共にある学校づくり」について

- ・ 取組の目的は「子どもたちの課題解決を図ること」で、達成のためには地域の方々と教職員が課題を共有するための「熟議」が必要である。

### ◆ブース展示「ならの教育応援隊」

団体や企業等による学校や地域における教育活動を支援する「ならの教育応援隊」のメニューを紹介するブース展示を行いました。団体・企業等が教育分野における社会貢献事業の一環として行う出前授業や見学等の活動を紹介し、多くの学校関係者、地域の方とのつながりが生まれました。



三光丸・日本自動車連盟・大阪ガス・大塚製菓・井上天極堂・NTTドコモ・セブン-イレブン・ジャパン・レオパレス21・関西電力・近畿日本ツーリスト・近畿日本鉄道・KDDI・奈良県測量設計業協会・国土交通省近畿運輸局・国立曽爾青少年自然の家・市民生活協同組合ならコープ・奈良県社会福祉協議会・JICA関西・ALSOK・総務省近畿総合通信局・第一生命保険・東京海上日動火災保険・奈良教弘・奈良県金融広報委員会・奈良県高等学校生徒会連絡会・奈良県消費生活センター・奈良県租税教育推進連絡協議会・奈良弁護士会・奈良県立大学・奈良県立野外活動センター・奈良ヤクルト販売・日本マクドナルドフランチャイジーアンビシャス・毎日新聞社・雪印メグミルク関西コミュニケーションセンター

以上、34団体74名の方の協力

### ◆講演「学校・家庭・地域の協働が子どもたちにもたらすもの」

東京学芸大学 児童・生徒支援連携センター 准教授 入江 優子

- ・ 熟議の基本はぼやくことから。子どもに関わる当事者がそれぞれ苦しみを抱えている中、弱音が吐けるようになると熟議はうまくいくのではないかと思う。
- ・ 「つながり方」には、「結束型」「橋渡し型」「連結型」の3つの種類がある。これら3種類のネットワークをどう組織化していくかが大切。
- ・ 「コミュニティ・スクール」は決して何かを改革していくシステムではなく、「学びを生み出し保障」していくものであり、子どもや大人が相手と関わり合いながら、変化していくつながりをつくっていくものである。



### 学校・家庭・地域でもう一度考えてもらいたい視点

- ① 地域資源を再発見する視点
- ② グローカルな視点
- ③ 学びの拡張の視点

## 《参加者の感想》

- ◆ 社会構造の変化から学校教育の変化を読み解く内容で、とてもわかりやすかった。（講演から）
- ◆ コミュニティ・スクールの道すじ、背景がよく理解でき、コミュニティ・スクールに求められるものがより明確になりました。（講演から）
- ◆ 企業等が学校現場と連携しようと取り組んでおられることに感謝したい。（ブース展示から）
- ◆ 学校で講師を招いて学習を進める際のヒントをいただきました。（ブース展示から）

